

# 子牛の寒冷対策について

いよいよ 11 月にも突入し、朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。本格的な冬の到来に向けて、子牛における寒冷時の飼養管理とヒーター使用時のポイントについて説明します。

## ◇子牛は寒さに弱い??

子牛の適温は 13~25℃と言われており、成牛と比べて寒さに弱いといわれています。その理由として、あげられるのは以下の 3 点です。

- ① 体重あたりの表面積が大きく熱が奪われやすい。
- ② 体脂肪が非常に少なく筋肉質。
- ③ 第 1 胃が未発達で、発酵熱の発生が少ない。



子牛の適温外である 5℃以下になると、熱を作り出すためのエネルギーが大きくなり、発育に必要なエネルギーが不足します。さらに、免疫力が低下すると下痢や肺炎などのリスクが高まってしまいます。これを防ぐためにも子牛の寒冷対策は重要です。

## ◇寒冷対策のポイント

寒冷対策のポイントとして、①換気とすきま風、②たっぷりの敷料とこまめな交換、③子牛の防寒対策があげられます。



写真 1 : すきま風防止のためにビニールで前室を設けたハッチ

### ① 換気とすきま風

換気が不十分であると、牛舎内に汚れた空気(湿気、アンモニア、二酸化炭素)がこもります。この汚れた空気は、免疫力が低下している牛にとって肺炎などの呼吸器疾患を発症してしまう要因にもなります。必ず換気の良い環境にしましょう。

また、すきま風が直接牛体に当たると体温が下がり、寒冷ストレスにより病気に対する抵抗力が弱くなってしまいます。

ビニールシートやコンパネなどを使用し、すきま風が当たらないように工夫しましょう(写真 1)。



写真2：たっぷりの敷料と子牛

## ②たっぷりの敷料とこまめな交換

体温保持のために夏よりもたっぷり乾いた敷料を入れましょう。敷料を厚く敷くことによって、空気を含み高い保温効果が期待できます。また、冷たい床や濡れた敷料に触れると、子牛の体温が奪われてしまいます。体温を維持するためにも敷料をこまめに交換しましょう。敷料の下にマットやすのこを敷くことも体温維持のために有効です（写真2）。



写真3：カーフジャケットを着た子牛

## ③子牛の防寒対策

子牛の防寒対策として、カーフジャケットやネックウォーマーなどがあります。カーフジャケットを着用することで、表皮体温を維持することができます。また、首には太い血管が通っているためネックウォーマーとカーフジャケットを併用することでより高い保温効果が期待できます。以上のような防寒着を寒い時には使用しましょう。

その他にも湯たんぽや吊り下げ式ヒーターなどが挙げられます（写真3）。

## ◇吊り下げ式ヒーター使用時におけるポイント



写真4：吊り下げ式ヒーター  
(单相 200v-300w)

### ○必要なときに必要な時間のみ使用する。

産まれた直後の濡れている子牛を乾かすときには一般的にカーフウォーマーやドライヤーが使用されていますが、吊り下げ式ヒーターも有効です（写真4）。

### ○設置位置を検討する。

ヒーターの説明書によると、ヒーター本体から背中まで 30cm の距離に設置した場合、ヒーターの真下は約 50℃ にもなります（写真5）。子牛の適温である 13~25℃よりも上回らないようヒーター本体から背中まで極力 30cm 以上 を目安とし、実際に温度を計測してから設置位置を検討しましょう。

また現在、資材価格が高騰しており、それに伴い電気料金も高騰しています。気温の低いときに活用し、経費削減・節電に取り組みましょう。

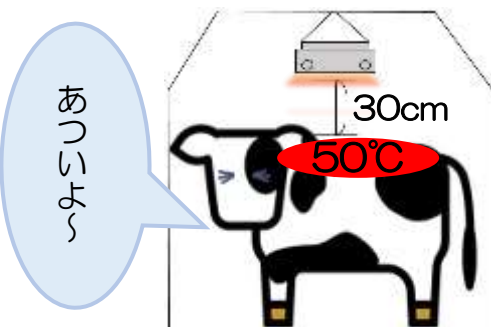


写真5：ヒーターの設置場所について